

文化振興指針推進・評価部会の開催報告

1 部会の開催状況

- 第1回** 平成27年11月16日（月）
- 議事 ・評価方法の見直しについて
 - ・年次報告書の作成について

- 第2回** 平成28年1月15日（金）
- 議事 ・指針に掲げた事業の26年度実績について
 - ・自己評価に対する審議会意見について

2 自己評価及び年次報告書の課題（審議会等の意見）

平成25年度の年次報告書を作成するにあたり、次のような意見が挙がっていた。

【自己評価】

- ① 担当課の主観による部分が多く、評価が甘くなりがち。
- ② 自己評価の結果を説明する客観的な根拠に乏しい。
- ③ 事業が広範囲に及んでいるため、施設管理やイベントなど、内容によって評価の基準を変えないと事業に合った評価ができない。

【第三者評価（審議会意見）】

- ① 自己評価の結果の正当性を判断することが困難。
- ② 現場を見ていない事業を評価することが困難。
- ③ 現地調査や担当所属へのヒアリングを実施したい。

【年次報告書】

- ① 結果を矢印のみで示すのは、曖昧でわかりづらい。
- ② 必要に応じて、数的根拠を提示すべき。
- ③ 報告の結果を今後活かすには、とりまとめの時期を早めるべき。

3 見直し結果

(1) 自己評価

- 自己評価の基準は、前回と同様に「達成度」の5段階評価とする。
- 第三者が意見する上で、「達成度」のみでは事業の内容が見えづらいため、個別目標に対する事業の適性を示す「評価視点」を加える。
- 各項目ごとに判断した主な理由を併記する。

<参考> 【見本1】重点事業評価シートの見直し

(2) 第三者評価

- 企画展等の関連事業の情報提供は継続する。
- 事業に対する第三者評価を行うにあたり、現地調査を実施することとし、事務局に対応を求めたい。

(3) 年次報告書

- 自己評価の結果の表記に、矢印だけでなく、数値（達成度から算出した評価点）も併せて記載する。
- 年次報告書は、文字量を減らし、写真や図を入れて見やすくする。
- 重点事業評価シートに、必要に応じて資料を添付する。
- 年次報告書を取りまとめる時期を前倒しする。（9月の審議会に提出）

<参考> 【見本2】年次報告書の見直し